

新田一郎教授

略年譜・著作目録

新田一郎教授 略年譜・著作目録

略年譜

- 一九三二年八月 宮崎県都城市に生まれる
- 一九五一年三月 宮崎県日南(鉄肥)高等学校卒業
- 一九五一年四月 熊本大学法文学部入学
- 一九五五年三月 熊本大学法文学部卒業
- 一九五六年四月 京都大学大学院文学研究科修士課程(西洋史学専攻)入学
- 一九五九年三月 京都大学大学院文学研究科修士課程(西洋史学専攻)修了
- 一九五九年四月 京都大学大学院文学研究科博士課程(西洋史学専攻)進学
- 一九六二年三月 京都大学大学院文学研究科博士課程(西洋史学専攻)進位取得退学
- 一九六二年四月 京都大学研修員(一九六三年三月まで)
- 一九六二年四月 奈良女子大学文学部兼任講師(一九六三年三月まで)
- 一九六三年四月 熊本大学教養部兼任講師(一九六七年三月まで)
- 一九六七年四月 南九州大学助教
- 一九六八年四月 島根大学文学部助教
- 一九七五年四月 島根大学文学部教授
- 一九七八年四月 島根大学法文学部教授
- 一九九〇年四月 金沢大学文学部教授
- 一九九八年三月 金沢大学を定年退職、金沢大学名誉教授
- 一九九八年四月 就実女子大学文学部教授
- 二〇〇一年四月 京都女子大学文学部教授
- 二〇〇六年三月 京都女子大学を定年退職

著作目録

- [著書]
 - キリスト教とローマ皇帝 教育社 一九八〇年
- [論文]
 - 四世紀におけるローマ社会の一考察 世界史研究一六
—キリスト教と異教との対立—葛藤
をめぐって— 一九五七年
 - コンスタンティヌス帝とキリスト教 世界史研究二二
—書簡・立法を中心として— 一九五九年
 - コンスタンティノポリスの建設とその
意義 史林四二—五 一九五九年
 - コンスタンティヌスの改宗—その時期
と動機をめぐる問題— 西洋史学五三 一九六二年
 - コンスタンティヌスと太陽宗教 史林四六—一 一九六三年
—Constantin-Helios 問題考—
 - 啓蒙君主としてのコンスタンティヌス 世界史研究三四—三六合
併号 一九六四年
 - ユダヤ教と原始キリスト教 世界歴史 第二卷(人文
書院) 一九六六年
 - ドナティズム運動に関する一考察 西洋史学七〇 一九六六年
—セクト運動の性格と意義—
 - ローマ帝国のキリスト教迫害 歴史教育一五—七 一九六七年
 - コンスタンティヌスの町 世界歴史シリーズローマ
帝国(世界文化社) 一九六八年
 - ディオクレティアヌスの時代、コンス
タンチヌス 西洋先史—五世紀 一九六九年

日本と世界の歴史二(学
習研究社)

ヨーロッパ・キリスト教
史一卷 中央出版社 一九七一年

西洋史学九二 一九七四年

図詳ガッケン・エリア教
科事典三―世界歴史(学
習研究社) 一九七六年

世界史研究論集記念号
島根大学法文学部文学科
紀要六一 一九八三年

皇帝崇拜とキリスト教迫害

世界史研究論集記念号
島根大学法文学部文学科
紀要六一 一九八四年

ローマの皇帝崇拜に関する一考察―属
州の皇帝崇拜を中心にして―

島根大学法文学部文学科
紀要七一 一九八四年

ギリシア・ヘブライの理想国家像とロ
ーマ帝国―「ローマの平和」に関す
る一考察 金沢大学文学部論集史学
科篇一三・一四合併号 一九九四年

「ローマの平和」に関する考察―一・
二世紀のローマの軍隊・皇帝崇拜・
キリスト教対策を中心に 金沢大学文学部論集史学
科篇一五 一九九五年

キリスト教迫害研究の新展開―松本宣
郎・豊田浩志氏の近業を中心に 歴史評論五四三 一九九五年

神君「divus」と大帝「maximus」の
比較研究―Pax Romana 及びキリ
スト教迫害との関連において 金沢大学文学部論集 史
学科篇一六 一九九六年

ローマ帝国の州分寺 角田文衛編『新修国分寺
の研究』第六巻総括(吉
川弘文館)所収 一九九六年

いかにしてキリスト教は世界宗教とな
り得たか―世界国家ローマとの関わ
りにおいて― 金沢大学文学部論集史学
科篇一七 一九九七年

キリスト教の世界宗教化の背景として 金沢大学文学部論集史学 一九九八年

の世界国家ローマの役割―終末論的
立場から見たローマ像 科篇一八

ヘブライ人・ギリシア人の戦争観とそ
の修正者ローマ人―「ローマの平
和」に関する考察― 就実女子大学史学論集一 一九九九年

西洋古代世界における「書物」の歴史 一九九九年就実公開講座
「書物と時代の思想―世
界と日本」 四 一九九九年

ローマ人の場合を中心に― 就実女子大学史学論集一 二〇〇〇年

一・二世紀のローマ世界に関する考察
―宗教・精神史の分野を中心とし
て― 五

「ローマの平和」とキリスト教 史窓五九 二〇〇二年

―二世紀における帝国と教会― 京都女子大学大学院文学
研究科研究紀要史学編三
二〇〇四年

コンスタンティヌス帝とキリスト教
―宗教寛容政策の本質― 史窓六三 二〇〇六年

コンスタンティヌスとキリスト教
―対マクセンティウス戦を中心に―

〔翻 訳〕

W・デュラント『世界の歴史七―英雄
シーザーと共和制ローマ』 日本ブック・クラブ 一九六八年

W・デュラント『世界の歴史一五―
イタリア・ルネサンスの展開』 日本ブック・クラブ 一九六八年

W・デュラント『世界の歴史二三―
ルイ王朝とフランス文化』(三浦
精一と共訳) 日本ブック・クラブ 一九六九年

W・デュラント『世界の歴史三二―
一八世紀後半の文明史』(三浦精一、
大月邦雄と共訳) 日本ブック・クラブ 一九七〇年

W・デュラント『世界の歴史三三―
ヨーロッパ近代への歩み』(山内満、
三浦精一と共訳) 日本ブック・クラブ 一九七〇年

島岡潤平と共記)

G・W・バワーンソック『背教者ユリア
クス』 思索社 一九八六年

S・ミンコ編著『原始キリスト教の背
景としてのローマ帝国』 教文館 一九八九年

〔書評・紹介等(主なもの)〕

Alföldi, A., *A Conflict of Ideas in the*
Late Roman Empire 西洋史学三四 一九五七年

Kraft, H., *Kaiser Konstantins Religiöse*
Entwicklung 西洋史学四六 一九六〇年

Doerries, H., *Constantine and Religious*
Liberty 西洋史学四九 一九六一年

Perowne, S., *Hadrian* 文化史学一六 一九六一年

弓削達『ローマ帝国の国家と社会』 西洋史学六四 一九六四年

半田元夫『原始キリスト教史論考』 日本の神学二二 一九七三年

浅香正『クレオパトラとその時代』 古代文化二六 一九七四年

弓削達 伊藤貞夫編『古典古代の社会と国
家』 史学雑誌八七―三 一九七八年

弓削達『ローマ皇帝礼拝とキリスト教徒迫
害』 日本の神学二四 一九八五年

松本宣郎『キリスト教迫害の研究』 西洋史研究二〇 一九九一年

豊田浩志『キリスト教の興隆とローマ帝国』 史林七八―二 一九九五年

〔辞典項目〕

旧約・新約聖書大事典 教文館 一九八九年

ローマ史関係 一〇項目 東京創元社

新編西洋史辞典(改訂増補版) 東京創元社

ローマ帝政・初期キリスト教、ユダヤ教関
係一〇六項目 一九九三年

古代オリエント事典 岩波書店 二〇〇四年

「ネストリウス派」など六項目

〔概説〕

神々と宗教儀礼 季刊文化遺産九浅香正監 二〇〇〇年

修特集ローマ文明の栄光

(島根県並河萬里写真財

団・創英社)

季刊文化遺産一七浅香正 二〇〇四年

監修特集ローマ古寺巡礼

(島根県並河萬里写真財

団・創英社)